



### シリーズ「新型コロナウイルスに負けるな！」



# 丑年

校長 笠井 猛雄

2021年、3学期がスタートしました。  
始業式で「干支（十二支）を全部言えますか？」と尋ねると、たくさんの子どもたちの手が挙がりました。

2年生の女子二名を指名しました。

ね、うし、とら、う、たつ、み、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、い  
「子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥」  
息をぴったりとそろえ、はきはきと発表する二人の姿が微笑ましく、とても立派でした。  
全校のみんなで大きな拍手を送りました。

さて、今年は十二支の二番目、牛（丑）年です。  
牛は、昔から、私たち人間の生活と深い関係がある動物です。  
子どもたちに次の話をしました。



牛乳をはじめとした乳製品、ステーキや焼き肉、牛丼など、私たちは、牛から様々な食料をいただいています。

また、牛は、農作業をしたり重い荷物を運んだりするなど、人間のためによく働き、私たちを助けてくれます。

それからもうひとつ、牛は、神様にお仕えする、しあわせを運ぶ動物として、全国の多くの神社に祀られています。特に有名なのが、学問の神様、菅原道真が祀られている福岡県の太宰府天満宮の牛です。

この牛をなでると頭がよくなるとか、夢がかなうとか言われ、全国からたくさんの方が訪れます。



太宰府天満宮の御神牛



菅原道真

太宰府天満宮の牛は、「天神さま（道真公）のお使い」と言われています。

なぜ牛なのか？は、「道真の生誕日時が、丑年・丑の日・丑の刻だった」「道真が命を狙われた時、牛に助けられた」など諸説あるようです。

インド（ヒンズー教）でも、牛の体内には3億以上の神が存在するとされ、神聖な動物として大切にされています。

去年は、新型コロナウイルスによって世界中が大きな困難に見舞われました。

この見えざる敵との闘いに勝利するには、多くの時間とさらなる困難が予想されます。

今年は、神が宿るとされる牛にあやかり、一人一人が強い心をもって一步一步前に進み、世界中のみんなで協力してコロナを克服し、希望に満ちた年になることを願います。

黙々と働く牛のように、自分の夢やめあてに向かって地道に努力することを子どもたちに期待します。

本年も皆様の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

※始業式で、牛に関する「なぞなぞ」を全校で楽しみました。ぜひ挑戦してみてください。



- ①牛が好きな果物ってなあに？
- ②頭の上ののっている牛ってなあに？
- ③学校にいる牛って誰のこと？
- ④図工の時間によく出てくる牛ってなあに？
- ⑤宇宙に行く牛って誰のこと？
- ⑥牛の子どもがいる園はどこでしょう？
- ⑦牛があることをしたら石になってしまいました。何をしたのでしょうか？

（答えはお子さんにお聞きください。）